



まきさと  
牧郷豆の会 (相模原市)

## 楽しさを求めて交流する親父たち

### ■地元有志の会

「親父たちによる、親父たちのための、親父たちの会」を標榜している地元の有志により結成されました。それぞれの職業経験を活かし、休耕地を利用した大豆や麦の栽培、味噌やうどんづくり、イベントへの出店など、様々な取組みを行っています。

### ■「楽しい」ことをやりたい

設立以来、会長を務めているのは倉田 実さん。50代前半の頃、定年を見据えて趣味を探し

ていたときに、味噌づくりに出会いました。大豆づくりから始めればもっと楽しいし、休耕地が多い地域の役にも立てるだろうと、監督を務めていたソフトウェアチームの仲間に声をかけ、休耕地を借り、大豆栽培を始めました。それからというもの、仲間とともに日々いろいろなことを楽しんでいます。

例えば、竹が繁茂して困っているという話を聞いたとき、竹炭を作れば楽しそうだと、空い

ている炭焼き小屋を借りて炭づくりをしてみました。皆でお酒を楽しく飲みながら、一晩中、火をくべていたそうです。また、近所の山のお社がボロボロになってしまったと聞いたときも、宮大工だったメンバーが造りなおしたお社を鉄骨で作った台に乗せ、付き合いのある大学生たちと一緒に、みんなで山の上まで運んだそうです。「きっかけはいつも酒の席での他愛もない雑談」と倉田会長は笑います。

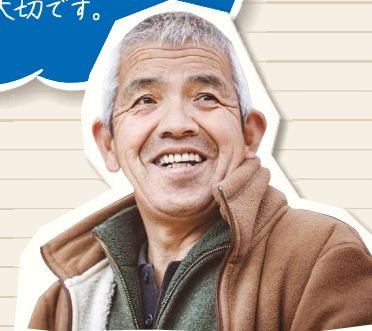


### ■「楽しさ」で人とつながる

ある年、相模原市のお祭りではブースを出展し、食べ物を売っていた牧郷豆の会。食べ物があまったからと大学生のボランティアグループに持っていき、そこから交流が始まり、大学生が農作業を手伝ったり、地域のお祭りに参加してくれたりするようになりました。「60歳を過ぎた大人たちがお酒を飲みながら楽しんでいるのが面白かったのかもしれない」と倉田さん

### 一言アドバイス

何よりも自分たちが楽しむことが大切です。



牧郷豆の会  
会長 倉田 実さん

### 成功のコツ

- ・人に楽しんでもらうためには、まず自分が楽しむこと
- ・地域の困りごとに楽しみの種を見つけること
- ・仲間になるためにはちょっとした出会いを大切にすること

はにこやかに話しました。

### ■自分たちが楽しむことが重要

そんな牧郷豆の会が最も大切にしているのが、「自分たちが楽しむ」こと。倉田さんは、「誰かのためにしていると考えたと、その人に何かを求めてしまいます」と話します。自分が楽しんだ結果として人が喜んでくれば、それが地域で連鎖していく、そんなことを考えて活動しているそうです。「これから老人クラブに入るので、きっとそこでも新しい仲間に出会えます。そうすればまた新たな楽しみに出会えます」と楽しそうに

話す倉田さん。牧郷豆の会はこれからも「楽しさ」で人の輪を広げていきます。

